

経済学研究科の3ポリシー

I. 大学院前期博士課程

1. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

経済学研究科は〈ジェネラル・エコノミスト〉を養成します。

〈ジェネラル・エコノミスト〉とは、高度な経済学的知識を習得したうえで種々の現実問題に取り組み、問題の解決に資することができる総合的能力を有する人を指します。

この目標を達成するために経済学研究科前期博士課程のカリキュラム・ポリシーに沿って修了に必要な単位を修得することで、〈ジェネラル・エコノミスト〉としての能力を獲得した学生、または国内外における経済関係領域において専門的知識と主体的行動力を生かしながら活躍することのできる学生に、経済学の修士号の学位を授与します。

2. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【一般コース】

高度な経済学的知識と総合的な問題解決能力を身につけることを目標に、学生が所属する「研究分野」を考慮に入れた諸科目をバランスよく履修できるように、講義形式で行なわれる「基礎科目」群と、より専門的な「分野科目」群を配置する。

また、修士の学位論文の作成のため、指導教員による「前期研究指導」を2年間にわたって履修し、2年次には指導教員に加えて2名の助言教員からの助言を受けるようにする。

【修士専修コース】

実践的な問題解決能力の修得を重視する。「基礎科目」と「分野科目」のうち前者の「基礎科目」の履修を重視するとともに、1年次の後期には、複数の教員が担当する演習科目である「ワークショップ」を履修し、チームワークによる課題研究に取り組むことができるようにする。

また、修士の学位論文の作成のため、2年次には指導教員による「修了論文指導」を履修し、指導教員に加えて1名の助言教員からの助言を受けるようにする。

3. 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

〈求める学生像〉

【一般コース】

経済学の基礎理論を習得したうえで、現代の経済学の先端的な理論や実証研究に関心を持つと同時に、豊かな現実感覚を有する人を受入れます。

【修士専修コース】

経済学に対する関心を持ちながら、社会のさまざまな分野で問題解決に取り組む意欲のある人を受入れます。

【推薦入学特別選抜】

学士課程での成績が優秀で、かつ大学院において経済学の先端的な理論の研究や実証研究に取り組む意欲のある人を受入れます。

【社会人特別選抜A・B】

職務上で直面する問題の経済学的な究明、長年の職業経験の学問的検証、またはライフワーク的な研究に取り組む意欲のある人を受入れます。

〈入学者選抜の基本方針〉

【一般選抜（一般コース）】

筆答試験では英語の読解力・表現力と経済学の基礎の習得度を、口述試験では「研究計画書」の適確性を確認し、学士課程における成績とあわせて総合的に評価します。

【外国人留学生特別選抜（一般コース）】

日本語の能力証明書では日本語の基礎能力を、筆答試験では英語の読解力・表現力と経済学の基礎の習得度を、口述試験では「研究計画書」の適確性と日本語による意思疎通能力を、それぞれ確認し、学士課程における成績とあわせて総合的に評価します。

【一般選抜（修士専修コース）】

筆答試験では英語の読解力・表現力と経済学の基礎の習得度を、口述試験では「研究計画書」の適確性と修了後の進路の希望を、それぞれ確認し、学士課程における成績とあわせて総合的に評価します。

【外国人留学生特別選抜（修士専修コース）】

日本語の能力証明書では日本語の基礎能力を、筆答試験では経済学の基礎の習得度、口述試験では「研究計画書」の適確性と修了後の進路の希望を、それぞれ確認し、学士課程における成績とあわせて総合的に評価します。

【推薦入学特別選抜】

成績証明書、推薦書、研究計画書、自己推薦書、及び口述試験の成績を、総合的に評価します。

【社会人特別選抜A】

筆答試験では経済学の基礎の習得度、口述試験では「研究計画書」の適確性を確認します。

【社会人特別選抜B】

第1次選考（書類選考）は「研究テーマ」の適確性を、第2次選考（口述試験）では「研究テーマ」に関わって出願者の有する知識を、それぞれ確認したうえで、総合的に評価します。

II. 大学院後期博士課程

1. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

経済学研究科後期博士課程は〈アドバンスト・エコノミスト〉を養成します。

〈アドバンスト・エコノミスト〉とは、経済学の高度な専門分野の研究に特化しつつ、それに加えて広い視野と現実的な感覚を豊かに持つ人を指します。

この目標を達成するために経済学研究科後期博士課程のカリキュラム・ポリシーに沿って修了に必要な単位を修得することで、〈アドバンスト・エコノミスト〉としての能力を獲得した学生、または専門的知識と豊富なキャリアを生かしながら国際的な経済活動の舞台で活躍することのできる学生に、経済学の博士号の学位を授与します。

2. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

後期博士課程は、高度な専門性と広い視野とを獲得を目指し、「分野科目」群の履修を重視する。

また、博士の学位論文の作成のため、指導教員により「後期研究指導」を3年間にわたって履修し、教員による助言を3年間にわたって受けるようにする。博士の学位論文は、3名の教員からなる審査委員会による博士の学位論文の審査を実施する。

3. 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

〈求める学生像〉

経済学のディシプリンをマスターしたうえで、専門分野の研究を深める志向性を持つと同時に、現実感覚に溢れた人を受入れます。

〈入学者選抜の基本方針〉

英語の筆答試験では経済学にかかわる英語の読解力・表現力を、口述試験では修士論文における論証・実証の適確性と緻密さ及び入学後の研究の計画を、それぞれ確認したうえで、総合的に評価します。